



11月の進路関係行事

- 1 (日) 進研模試②
進研駿台共テ③
大学別模試③
- 3 (火) 文化の日
- 5 (木) 芸術文化祭
 グランドステージ
- 6 (金) 科目登録締切
大学別模試③
- 7 (土) 土曜課外①②
土曜講座①
学習会②
大学別模試③
- 11 (水) PTA あいさつ運動③
後期植花作業
大掃除
- 12 (木) 月曜授業
- 14 (土) 土曜課外①②
土曜講座①
学習会②
- 19 (木) 試験時間割発表
- 20 (金) 県民の日
- 23 (月) 勤労感謝の日
- 25 (水) 職員会議
- 26 (木) 第4回定期試験
 [～12/1(火)]
- 27 (金) 志望校検討会③

※○数字は学年を示します

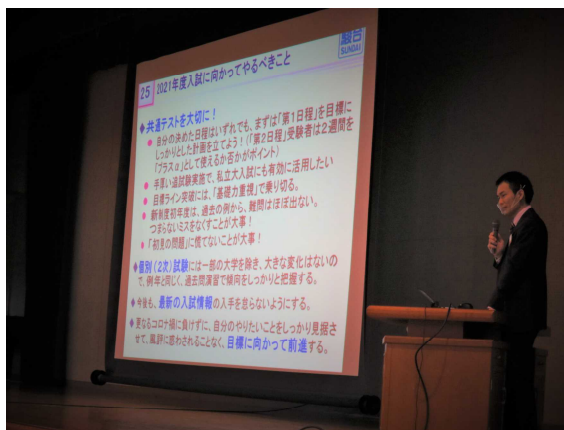
<大学入学共通テスト：3年生244名が出願>

9月28日(月)～10月8日(木)の間、大学入試センターでは、**令和3年度大学入学共通テストの願書受付**が行われました。本校では、受験希望者244名から提出された出願書類を各クラス担任及び進路指導部で確認した後、10月2日(金)(**大安吉日**)に出願いたしました。

すでに皆さんご存知のことだと思いますが、今年は大学入学共通テストの初年度ということで、当初から、これまでの大学入試センター試験からどのように変わるのかということにかなり注目が集まっていました。それに加えて、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大という問題が生じたために、急遽日程にも変更が加わり、第一日程(1月16・17日)と第二日程(1月30・31日)に実施が分かれ、現役の志願者はどちらの日程で受験するかを選択しなければならない事態となりました。本校では、**志願者244名全員が第一日程を選択し、第二日程で受験を希望する生徒はおりませんでした**。これは、6月以降、対面での授業が実施されており、夏季課外や理社課外などの実施により、学習に大幅な遅れが生じていないこと、また、第二日程を選択した場合に考えられる様々なデメリット(具体的には、「私立大学の個別試験との日程がタイトになること」、「国公立大入試までの準備期間が短くなること」、さらには「すでに第一日程で受験した生徒の結果が(自己採点とは言え)判明している状況となるため、「同じかそれ以上の点を取らなくてはならない」という心理的なプレッシャーがかかることなど)を考慮した結果だと思われます。

志願が終われば、あとは**本番で自己ベストの点を取れるよう、着実に学習を進めていだけ**です。自己の進路実現のために、最後までしっかり頑張りましょう!

<3年生対象「大学入試・進路講演会」を実施>



10月9日(金)6校時のフロンティア探究の時間を利用して、3年生を対象に進路講演会を実施しました。大学入学共通テストの出願を終え、**試験まで残り100日を切るタイミング**で行われる講演会ですが、今年も昨年に引き続き**駿台予備学校・立川校の教務マネージャー・小池田真人さん**を講師としてお招きし、講演していただきました。小池田さんは予備校で担当している浪人生の様子や都内の高校で同様の講演を行った際

の経験などを踏まえ「今年の受験生は遅れを取り戻そうと強い危機感を持っているが、**山梨の高校生は真面目で努力する生徒は多いと感じるが、ややのんびりしている感は否めない**」と指摘されました。また「分からないことや不安なことには特に集団心理が強く作用するため、今年度のように新入試制度に変わるタイミングにコロナ禍が重なるような状況下では、**多くの受験生が焦りから志望を下げるような安全志向の傾向が強くなる**」と言われている。しかし実際には、**漠然とした不安から弱気になって、志望に対して妥協したり、易きに流れているだけではないか**」と話されました。駿台予備学校で収集した全国の受験生のデータをもとに、「**今年は、いかに強気で、第一志望を譲らないという意識を持ち続けられるかが特に大事な年となる**。共通テストへの変更はマイナーチェンジに過ぎず、演習量を確保して対策を行うことで十分対応は可能であり、**現役生は最後まで伸びていくので自分を信じて、諦めずに挑戦していく姿勢が現役合格するためには大切だ**」とこれから受験に向かう3年生の背中を押してくれました。

<2年生対象 職業人講話を実施しました>



10月9日(金)7校時のフロンティア探究の時間を利用して、2年生を対象に「**職業人講話**」を実施しました。これは毎年、甲府ロータリークラブにご協力いただき、講師派遣をお願いして実施している講話です。今年はセコム山梨株式会社の代表取締役社長・田中慶一氏をお招きし、「**危機管理と社会人としての体験談**」をテーマにお話をいただきました。講演ではセコムという会社は「いつでも、どこでも誰もが「安全・安心」で「快適・便利」に暮らせる社会の実現」を目指しており、これはSDGsが推進しているサステナビリティの実現という目標に合致していること、また、セコムはセキュリティの仕事の本業としていることから、日常に潜む危険と対策についても、具体的な問題点を挙げながら、私たちが日頃注意すべきことを丁寧にお話いただきました。また、社会人としての体験談として、生活の中にあるさまざまなリスクを事前に想定しておく「リスク管理」と、実際にリスクが顕在化した場合に事態を把握し、被害を最小限に食い止め、事後の復旧に努める「危機管理」の重要性についても述べられ、これから生徒たちが社会の中でさまざまな困難に直面した際に、その問題解決に役に立つお話をいただきました。

1年生文理選択・2年生科目登録

1・2年生は来年度の履修科目登録を行う時期になりました。10月28日から3日間を中心にして、1・2年生の三者懇談が予定されていますが、懇談を通じて、担任の先生と密に情報交換をしながら文理選択や履修科目の選択をして欲しいと思います。特に1年生の多くは受験科目などを考慮して、いわゆる文系・理系の選択をしなければなりません。本来は、学びに文理の区別を持ち込む必要はないのかもしれませんが、上級学校への進学を考えると、どうしても受験科目との兼ね合いで文理や科目を選択しなければならない事情があります。選択の際には、少なくとも志望学部や学科については明確であることが前提です。ご家庭でもよく話し合い、悔いのない選択ができますよう、ご協力をお願いします。

<進路を考えるヒント>

NO IMAGE

今回の進路を考えるヒントは、『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（加藤陽子著）を取り上げます。著者の加藤陽子氏は東京大学の教授（以前は山梨大学でも教鞭を取られていたようです）で、日本の近現代史を専門にしている方です。加藤氏はこの著書で2010年に小林秀雄賞（文芸評論家・批評家の小林秀雄の生誕100年を記念して創設された、評論・エッセイを対象に毎年贈られる学術賞）を受賞しています。

本書は、2007年の年末から翌年の正月にかけて**神奈川県私立栄光学園の高校生に対して行われた5日間の集中講義**をまとめたものです。本書を読むと、東大の教授が膨大な歴史資料を基に入念な準備をした上でこの講義を行い、教科書の内容を超えた深いところまでかなり踏み込んでいるなと感じられるのですが、著者の発問にきちんと応答し、講義についていく栄光学園の高校生は本当に立派だなと感心しました。内容からすると、『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』という題名はややセンセーショナル過ぎるかなという感は否めませんが、**日本の近現代を、日清戦争から太平洋戦争まで繰り返された「戦争」を通じて、様々な視点から語られており、歴史好きはもちろん、私**

のように歴史に詳しくない人でも、必ず新たな発見が得られる本ではないかと思えます。私自身、高校時代に日本史と世界史を学びはしましたが、大学入試が終わった途端に学んだことをほとんど忘れてしまい、あんなに時間と労力をかけて学んだつもりだったのに、所詮「大学受験のための勉強」に過ぎなかったんだと深く反省しました。「歴史は暗記科目」などと言う人もいますが、そんな人こそ本書を手に取り、筆者が発する「なぜ」「どうして」という問いかけに、栄光学園の生徒たちと一緒に講義を聞いているつもりで答えてみてください。「**歴史を学ぶとはこういうことなのか！**」と認識を改める良い機会になると思います。最後に、ドイツ連邦共和国第6代大統領であった故リヒャルト・フォン・ワイツゼッカー氏が1985年に第二次世界大戦の終戦40周年を記念した式典で、「**荒野の40年**」と題して行った演説の一部を引用しておきます。「**問題は過去を克服することではありません。さようなことができるわけはありません。後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはまいりません。しかし過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。**」

URL <https://www.kofuminami-h.ed.jp>

E-mail shinro@kofuminami-h.ed.jp

山梨県立甲府南高等学校
進路指導部